

# 病害虫発生予察指導情報 (ブロッコリー黒すす病)

令和4年6月8日  
鳥取県病害虫防除所

## 1 情報の内容

6月7日現在、ブロッコリー黒すす病の発生が多くなっています。今後の気象条件によっては発病が急増する恐れがありますので、ほ場の観察を徹底し、予防防除に努めましょう。

## 2 情報の根拠

- (1)園芸試験場における初夏どりブロッコリーの本病試験ほ場の発病調査では、5月30日時点の薬剤無散布区の発病葉率は20%以下であったが、6月7日では、同53.3%と急激に増加した(図1)。県慣行防除区(定植30日後にパレード20フロアブル+定植45日後にアミスター20フロアブル)は20%以下で推移している。
- (2)本病は、25℃付近が発病適温で、降雨により発病が助長される。今後、降水量の増加が見込まれることから、本病の発生量はやや多いと予想される。

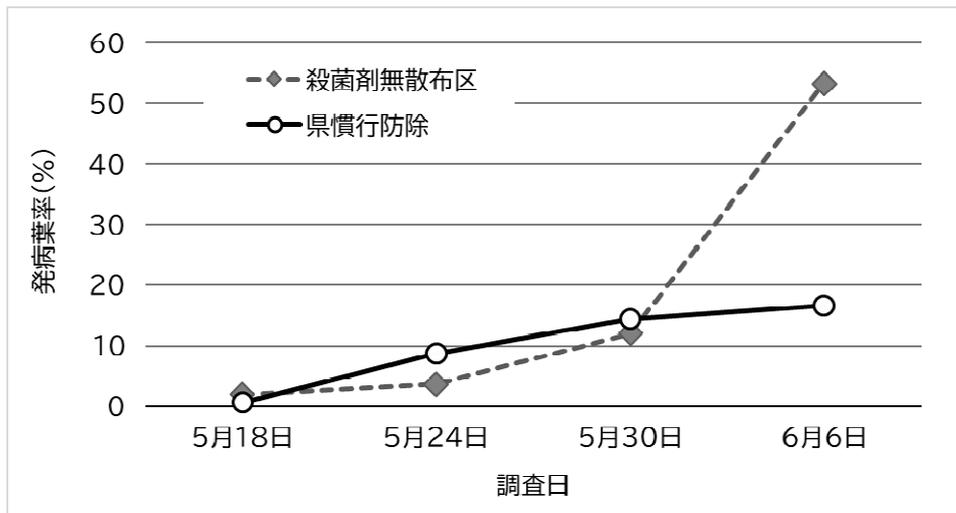


図1 ブロッコリー黒すす病の発病葉率の推移(鳥取県園芸試験場試験ほ場)

注) 下位~中位葉の合計300葉(計60株、5葉/株)を調査した。

供試品種は‘SK9-099’、4月15日定植の6月中旬収穫作型。

## 3 防除上注意すべき事項

- (1) 葉の病斑は、花蕾への伝染源となるため、ほ場の観察、特に下位葉の観察を重点的に行い、発病が認められる場合は、出蕾前防除を徹底する。
- (2) 薬剤はアミスター20フロアブル、アフェットフロアブル、シグナムWDG、パレード20フロアブル、メジャーフロアブル、ホライズンドライフロアブル、ファンタジスタ顆粒水和剤を使用する。また、薬剤耐性菌対策のため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。